

高知県感染症発生動向調査（週報）

2020年 第46週 （11月9日～11月15日）

インフルエンザ予防接種はお早めに

季節性インフルエンザは、その年により流行の程度に差がありますが、例年11月頃から患者が増え始め、12月から3月頃にかけて流行します。インフルエンザワクチンは、インフルエンザウイルスに感染した場合に発症を一定程度抑える効果や重症化を予防する効果が認められています。ワクチンを接種してから抗体ができて予防効果が発現するためには、およそ2週間かかると言われていています。かかりつけ医等医療機関にご相談のうえ、予防対策の1つとして予防接種をご検討下さい。

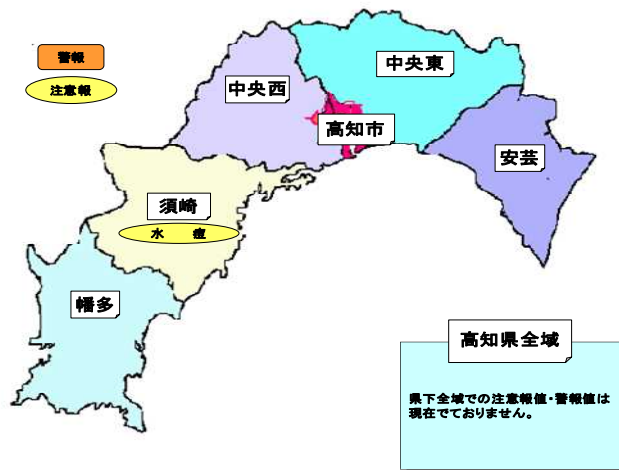
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患5疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	1.07	中央西、須崎で急減、中央東で減少していますが高知市、安芸で増加しています。
手足口病	→	0.93	中央東、安芸で急減していますが、幡多で急増、高知市で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	0.50	中央西、中央東、幡多で急減していますが、高知市で増加しています。
ヘルパンギーナ	↓	0.43	県全域、幡多、安芸で急減、高知市で減少しています。
突発性発疹	→	0.32	須崎で急減していますが、中央東、幡多で急増しています。

★地域別感染症発生状況



【感染症予防の基本】

手洗い：感染症予防の基本は手洗いです

- ・爪は短く切っていますか？
- ・指輪・時計ははずしていますか？

- ① 石けんを泡立て、てのひらをよくこすります
- ② 手の甲、指の間や指先、ツメの間まで丹念にこすります
- ③ 親指をねじり洗いし、手首も忘れずにあらいます
- ④ 石けんを洗い流し、清潔なタオルで拭き取って乾かします

汚れの残りやすいところも丁寧に：指先、指の間、爪の間、親指の周り、手首、手のしわ
タオルの共有は避けましょう



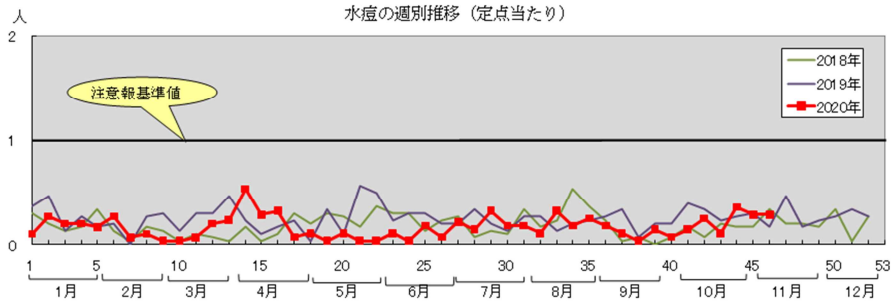
★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

○水痘（みずぼうそう）に気を付けて！

水痘は、水痘帯状疱疹ウイルスによる感染症で、一般には「みずぼうそう」と呼ばれています。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛まつ感染・空気感染、水疱や粘膜の排出物に接触することによる接触感染により感染します。

潜伏期間は2週間程度です。通常は、軽症で終生免疫（一度の感染で生涯、その感染症にはかからない）を得ることが大半ですが、成人では髄膜炎や脳炎などの合併症の頻度が高くなるなど重症化することもあります。また、ウイルスが治癒後、体内に潜伏しており、何年も経て「帯状疱疹」として再発することもあります。



<予防方法>

有効な予防対策は予防接種です。2014年10月1日から水痘ワクチンが定期接種となっています。

また、水痘患者に接触した場合でも、3日以内にワクチンを接種すれば発病を予防したり、症状を軽減することが期待できるとされています。

【学校感染症】

水痘（みずぼうそう）は学校保健安全法（同法施行規則第19条）では、出席停止期間の基準が「すべての発疹が痂皮化するまで」と規定される学校感染症（第2種）です。ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでないとして規定されています。

ダニの感染症（SFTS・日本紅斑熱・つつが虫病）に注意！

「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」や「日本紅斑熱」は、屋外に生息するダニの一種で比較的大型（吸血前で3~4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

また、「ツツガムシ」に咬まれることによって感染する「つつが虫病」にもご注意ください。高知県では秋から冬にかけて多く報告されており、ダニの一種である「ツツガムシの幼虫（0.2mm）」が媒介する感染症です。（全てのツツガムシが病原体を持っているわけではありません）。

予防対策については、マダニと同じく「ツツガムシに咬まれない」ことです。

【ダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- ダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、ダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日~数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生環境研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★病原体検出情報

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
36	流行性耳下腺炎	咳嗽,	5	女	須崎	Rhinovirus
43	気管支炎	39℃, 気管支炎,	4ヶ月	男	幡多	Rhinovirus

★全数把握感染症

	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
5 類	梅 毒	1	27	30 歳代 女	高知市
		1		60 歳代 女	
	百日咳	1	34	0~4 歳 男	

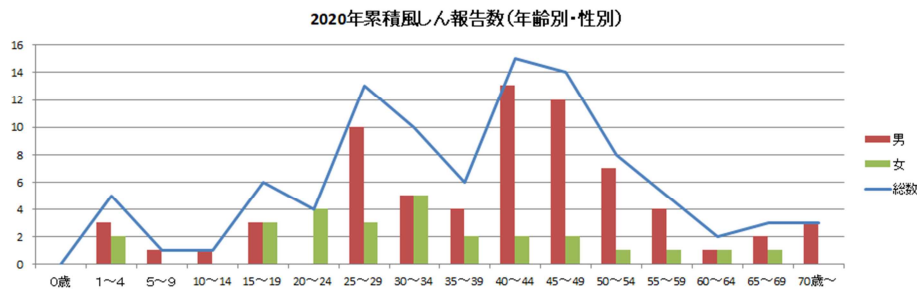
★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
安 芸	田野病院小児科	アデノウイルス扁桃炎 1 例 (9 ヶ月男)
高知市	けら小児科・アレルギー科	サルモネラ O7 腸炎 1 例 (12 歳) アデノウイルス扁桃炎 1 例 (2 歳)
	三愛病院小児科	アデノウイルス感染症 1 例 (1 歳男)
	福井小児科・内科・循環器科	手足口病 6 例 ヘルパンギーナ 6 例 水痘 1 例 (7 歳女: ワクチン未接種)
中央西	石黒小児科	口唇ヘルペス 1 例 (4 歳男)
	日高クリニック	アデノウイルス扁桃炎 2 例 (2 歳男、5 歳男) 帯状疱疹 2 例 (55 歳男、59 歳男)
須 崎	もりはた小児科	滲出性扁桃炎 (アデノウイルス) 2 例 (1 歳、3 歳) 水痘 3 例 (うち 4 歳、5 歳はワクチン 2 回接種済み) マイコプラズマ肺炎 1 例 (1 歳女)
幡 多	こいけクリニック	アデノウイルス結膜炎 1 例 (4 歳 11 ヶ月)
	さたけ小児科	水痘 1 例 (4 歳女: ワクチン 2 回接種、軽症)

★県外で注目すべき感染症

○風しん、先天性風しん症候群を予防しましょう

2020 年第 1 週～第 45 週の累積報告数は 96 人 (男性 69 人、女性 27 人) となっており、そのうち 87% (83 人) が成人で、25 歳から 50 歳代の男性が中心となっています。



妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんにも感染し「先天性風しん症候群」という病気にかかってしまうことがあります。

風しんの予防にはワクチンを接種し、風しんに対する免疫を獲得することが有効です。風しんに対する十分な免疫があるかどうかは、抗体検査で確認することができます。

赤ちゃんが生まれつきの病気にならないよう家族みんなで風しん抗体検査を受け、免疫がない場合は予防接種を受けることをご検討ください。

【無料の風しんの抗体検査について】

現在県内では2つの事業で「風しん」に対して十分な免疫があるかどうか確認するため無料の抗体検査を実施しています。

- 対象者**・高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性
- ・妊娠を希望する女性または風しんの抗体価が低い妊婦の配偶者など（生活空間を同一にする頻度が高い方。婚姻の届けを出していないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある方を含む）
 - ・風しんの追加的対策として、1972年（昭和47）年4月2日から1979年（昭和54）年4月1日生まれの男性について、一括してクーポン券を配布
 - 1962（昭和37）年4月2日から1972（昭和47）年4月1日生まれの男性については、本人がクーポン券を希望する場合において、住所地の市町村が個別に発行

検査受付：実施医療機関ごとに異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）

検査結果：検査後1～2週間後に郵送もしくは再来院にてお知らせいたします

- 厚生労働省「風しんの追加対策について」（風しん抗体検査・風しん第5期定期接種受託医療機関）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index_00001.html
- 無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/2020051200219.html>
- 風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け） <https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf>
- 風しん Q&A2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>
- 風しんについて（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/

○高知県の新型コロナウイルス感染症情報

高知県庁ホームページ：<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/111301/info-COVID-19.html>

		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	総計
10月	19 月							
	20 火							
	21 水							
	22 木							
	23 金							
	24 土							
	25 日			141	142			2
	26 月							
	27 火		143					1
	28 水			144				1
	29 木							
30 金								
31 土								
11月	1 日							
	2 月							
	3 火							
	4 水							
	5 木							
	6 金							
	7 土							
	8 日							
	9 月							
	10 火							
	11 水							
	12 木							
	13 金							
	14 土							
	15 日							
総計		2	12	98	8	3	21	144

総計は2月28日以降の報告者数
数字は症例番号 女性は斜体

★ 直近の新型コロナウイルス感染症およびインフルエンザの状況（2020年11月6日現在）

（国立感染症研究所IDWR2020年第44号より）

新型コロナウイルス感染症：

2019年12月、中華人民共和国湖北省武漢市において確認され、2020年1月30日、世界保健機関（WHO）により「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言され、3月11日にはパンデミック（世界的な大流行）の状態にあると表明された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2020年11月6日15時現在、感染者数（死亡者数）は、世界で48,517,411例（1,231,784例）、192カ国・地域（集計方法変更：海外領土を本国分に計上）に広がった。

国内では、厚生労働省により公表されている、各自治体がプレスリリースしている個別の事例数（再陽性例を含む）を積み上げた情報によると、2020年11月6日0時現在、新型コロナウイルス感染症の検査陽性者は104,782例、死亡者は1,806例と報告されている。PCR検査実施人数は、暫定値として2,818,683例であった。全国の報告日別新規陽性者数は、9月後半より増加傾向にあることが徐々に明らかとなっている。

COVID-19による全国の入院治療等を要する者の数の推移については、7月以降では8月10日の13,724例を最高に、その後大きく減少したが、9月下旬以降は横ばいになり、10月20日の5,031例を底に、再び増加に転じている。日本COVID-19対策ECMOnetが集計するECMO/人工呼吸装着数の推移においては、7月中旬から8月後半にかけ増加し、その後減少に転じていたが、感染者数の増加に伴い、時間差を置いて10月下旬から増加の傾向にある。なお、全国的に、介護施設等を含む集団感染（クラスター）の発生が認められることから、重症患者の増加については警戒しなければならない。この重症患者数については、一部の都道府県においては、都道府県独自の基準にのっとり発表された数値を用いて算出されていることに注意する。

北海道では、11月に入り、検査数、新規陽性者数、陽性割合が急激に増加している。検査数が増えている中で、陽性割合が増加しており、COVID-19発生頻度が真に増加していると考えられる。クラスターが数多く発生し、医療提供体制への影響が出始めていることから、11月27日までを集中対策期間として、道民・事業者・来道者に注意喚起を行うとともに、感染対策強化に関する協力を要請している。

東京都では検査数を高レベルで維持している中で、直近では陽性数、陽性率ともに微増になっており、接触歴等不明者の数と割合が高い傾向も見られている。多くの地域で人の流れが継続して増加傾向にあることから、人々の接触機会の増加が考えられる。全国的に、今後、適切な感染防護策を講じない場合、感染者数、ひいては重症者数が増加することが懸念され、警戒が必要である。発熱等相談件数等の症候群サーベイランスやクラスター発生等、複数の情報源をモニタリングするサーベイランス体制等による継続した注視が必要である。

なお、感染症発生動向調査（NESID）病原体サーベイランスには、医療機関、保健所等で採取された検体から、各都道府県市の地方衛生研究所、保健所、ならびに検疫所で検出された病原体の情報が、任意ではあるが報告されている。2020年11月6日現在、地方衛生研究所および保健所から報告された、新型コロナウイルス感染症/新型コロナウイルス感染症疑い症例から検出された病原体は、SARS-CoV-2が7,572件（4月が最多の3,282件；8月までは陽性割合も4月が最高であった）、陰性が61,945件であった。これ以外にも検疫所で検出されたSARS-CoV-2が132件報告されている。

2020年5月29日以降、新型コロナウイルス感染症発生届に関する国への報告事務は、厚生労働省が運営する新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）を用いて行われることとなり、移行可能な自治体から順次、移行を実施し、現時点で全国の自治体で利用されている。厚生労働省においては、今後の統計情報の集計等については、HER-SYSに入力された情報に基づいて行うことを基本とするとしている。本稿では、HER-SYSに基づく情報は含めておらず、今後分析を行っていく予定である。

季節性インフルエンザ：

全国約5,000のインフルエンザ定点より報告された、2020年第44週（2020年11月4日現在）の定点当たりのインフルエンザ報告数は0.01（患者報告数32）となり、前週の定点当たり報告数0.01（患者報告数30）と同程度で推移している。都道府県別の第44週の定点当たり報告数（報告数）では滋賀県0.07（報告数4）、長崎県0.06（報告数4）、沖縄県0.05（報告数3）、三重県0.03（報告数2）、青森県0.02（報告数1）、新潟県0.02（報告数2）、岐阜県0.02（報告数2）、奈良県0.02（報告数1）、岡山県0.02（報告数2）、東京都0.01（報告数4）、静岡県0.01（報告数1）、愛知県0.01（報告数1）、大阪府0.01（報告数2）、北海道0.00（報告数1）、埼玉県0.00（報告数1）、千葉県0.00（報告数1）となっている。定点医療機関からの報告を基にした、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数は約0万人（95%信頼区間：0.0～0.1万人）となった。また、全国約500の病原体定点からの報告による感染症発生動向調査（NESID）病原体サーベイランスにおける、イ

ンフルエンザウイルス分離・検出速報によると、2020/21シーズンのインフルエンザウイルス分離・検出報告はまだない。

WHOは（10月23日現在）、北半球の温帯地域の国々では、インフルエンザ検査数は維持、あるいは増加しているにもかかわらず、インフルエンザの報告数はこの時期における通常のレベルを下回ったままであること、東南アジアの国ではインフルエンザウイルスの検出数の増加が報告された国があること、世界においてインフルエンザウイルス検出の報告は非常に少ないが、約6割を占めたA型ではH3N2が、残るB型ではビクトリア系統がそれぞれ大部分を占めたこと等を報告している。WHOは、世界の国々がCOVID-19伝播を減らすための対策を講じたことがインフルエンザの減少に影響した可能性がある、としている。今後も、インフルエンザの定点報告の継続と、インフルエンザ様疾患に対する病原体サーベイランスの継続が重要である。

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2020年11月16日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2020年 第46週)

